

ICT活用による授業の可能性と学習の習慣化をめざして

～学習管理システム（LMS）による自学自習環境の整備～

福島県立喜多方桐桜高等学校 教諭 五十嵐陽一

1 研究の趣旨

高等学校教育課程編成の手引き総則編（福島県教育委員会平成23年2月）には、家庭における学習時間など学習意欲、学習習慣・生活習慣に対する課題があげられている。

研究協力校で実施したアンケートでも日々の家庭学習時間が30分以内という生徒が約7割を占め、学習習慣が身に付いていない生徒が多いという結果が得られた。

学習習慣を身に付けさせるため、ICTの利用方法を探り、以下のような仮説を立て、本主題を設定した。

- (1) ICTの特徴である双方向通信や視覚的教材を効果的に利用して授業を展開すれば、学習内容の理解が深まり、学習意欲が高まるだろう。
- (2) 学習管理システム（Learning Management System以下、LMS※¹）を利用し、自学自習環境を構築することで、自主的な学習の取組みが図られるだろう。

※1 LMSとは、学習教材の配信や学習者の学習・進捗履歴などを統合的に管理するシステムである。

2 研究の概要

本研究では、国立情報学研究所が開発した次世代情報共有基盤システムのNetCommonsをLMSとして利用し、以下の内容をおこなった。

- (1) テレビ会議システムを利用した授業実践
- (2) LMSを利用した授業・自学自習教材環境の提供
 - ① 掲示板による意見交流
 - ② 確認テスト
 - ③ 動画教材の配信
- (3) Web ページを利用した学習管理サイトの構築



学習管理サイト TOP ページ

3 成果と今後の課題

- (1) 研究の成果
 - ① LMSとして、NetCommonsを利用したことで、環境作成を容易に進めることができた。
 - ② 掲示板は、リアルタイムな意見の投稿を可能にし、板書の時間と労力を解消したことで、教員が投稿に参加し、話題の提供やアドバイスができた。更に、生徒各自の意見を学習履歴として残せたことにより、評価が充実した。
 - ③ 授業中に実施した小テストが考査前に再び利用されたこと、及び動画教材が視聴されたことから、学習意欲の高まりが確認できた。
 - ④ テレビ会議の利用により、時間と経費の削減ができた。また、画面の記録機能を利用することで、何度でも視聴できるようになった。
 - ⑤ 動画教材は、生徒各自のペースに合わせた学習と繰り返し学習を可能にし、欠席者への対応としても利用することができた。
- (2) 今後の課題
 - ① LMSの運用が短期間だったため、自学自習教材が不足し、生徒のニーズに十分な対応ができなかった。その結果、検証データが十分でなかった。
 - ② LMSの利用促進のため、他教科とも連携を深め、数多くの教材を開発する必要性を感じた。